

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 厳しい採用環境下でも20名の高卒生を確保しました

先日、昼食をファミレスでとったのですが、いかにも子育てを終えた50代～60代とおぼしき女性店員ばかり。失礼ながら勝手なウエイトレスのイメージからはかなりの年配となりますが、接客マナーはしっかりとしていて所作に無駄がなく実に気持ちが良い対応だと感心させられました。

最近では、スーパーのレジも学生アルバイトより、シニア・シルバー世代とお見受けする層が圧倒的に多くなっています。人手不足の影響と限定するのは誤りでしょう、積極的に社会とのつながりを求める人たちが大いに活躍できる世の中になったのです。幅広い年代に仕事がある時代は真に喜ばしいことだ、と思うのです。

若者がアルバイトをしなくなり、親がパートで子供の学費とお小遣いを稼ぐ。私の学生時代は「勉強もしないでアルバイトばかり」と揶揄されることが多かった時代でしたが、最近では「アルバイトのひとつでもして欲しい」と親がぼやくことが多いと聞きます。

人手不足が深刻化し、働き方改革で既存戦力にまで時短が叫ばれる中で、現場ではとにかく「人」を必要としています。



当社では今春入社予定の高卒生を20名採用できました。それでも、まだまだ人材が欲しい。当社では3月末まで、進路未定者・卒業生を求めて学校訪問に力を入れる体制を維持しております。当社の採用活動は1月・2月・3月と続きます。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 交通誘導警備が激変するかもしれない

先般の新聞記事に自動運転技術がレベル3に向かい、メーカーの開発競争が一段と激しくなるとありました。レベル3とは自動運転技術の中でも無人化に向けた完全自動化への手前段階でドライバーがハンドルを持たなくて良い段階らしいのです。

自動運転といっても、これまでの技術ではドライバーは手のひらを上向きにして膝に置き、万が一のときはハンドルをすぐに掴めるスタイルの維持を余儀なくされています。

以前、矢沢永吉がそのスタイルで自動運転を体験するテレビCMを見ましたが、「ただの手放し運転じゃないか？」とこどもの頃に自転車の手放し運転ができるようになった日の感動が台無しになるような滑稽さすら感じたのです。

私どもは総合警備業を志向しており、その中のひとつが交通誘導業務となっております。もし自動運転車が普及し、車が完全無人化したとき、車外から警備員が「止まれ!!!」と大声で静止しようとしたらどう反応するのか？信号のない路上の警備員が誘導棒で指示する方向にきちんと方向転換できるのか？といったことが社内でも議論になりはじめています。



必ずしも自動運転技術の普及で悲惨な交通事故が減ったり、社会問題となっている高齢ドライバーのぼんやり運転が無くなるとは到底思えないのです。私は(警備員は)車とすれ違う数十メートル手前から、ドライバーと目を合わせることで自らの安全を守っています。便利さを追求した技術の進歩が別の危険を運んでくることも忘れてはいけないと思うのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 春風が運んでくるもの

庭に植えた紅梅が早くもつぼみから開花を迎える頃となりました。先生方は、入学試験～卒業式～入学式の準備と「4月」「新年度入り」は多忙を極めることと存じます。民間企業もまた入社式～新人研修～新業績年度入りと大きな節目にあたります。当社では、3月までに採用した高卒入社正社員は総勢22名となりました。あらためてこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、このところの強風で、隙間風が入るわたしの部屋は早朝から雑巾がけをしたくなるような砂よごれを感じてせせと掃除をすることが増えました。窓ガラスの外面がうっすら黄色く感じるのは黄砂か、花粉なのか、ぞっとする季節の到来です。

街を歩く人の姿で自分の子供の頃と大きく変わった点は、ファッションやヘアスタイルではありません。大人から子供まで、マスクで顔を覆う人が当たり前の世の中になった点だと気づきます。



先日の突然の春一番に、普段の安い使い捨てタイプのマスクではなく値段の張るタイプを購入する羽目になりました。値段だけあって歴然とした使用感の差を感じ、「これが高付加価値戦略による差別化か」と感激しました。呼吸が楽で汗ばむこともない。ニオイもこもらずゴムひもで耳が痛くならない。プチ贅沢でもないですが「高いなりに良いモノ」消費が高まれば、企業努力を刺激するのです。ひとりの消費者としてこうした企業努力にも目を向ける余裕を持ちたいものです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 高卒新入社員22名の入社式を行いました

新緑の季節、今年で創業40周年を迎える当社では、この春に高等学校を卒業したばかりの新入社員22名の入社式を4月2日に無事終えることが出来ました。入社式では私が一人ひとりに配属辞令を手渡します。その時の頼もしくもあり、どこか不安を隠せない初々しい若者らしい表情と対面し、「会社を通して彼らの人生形成に役立ちたい。」という責任の重さに身の引き締まる思いです。

社会人にとって「職場のストレス」から隔離された世界の住人となることはちょっとした憧れではないでしょうか。慣れ親しんだ会社を退職してでも環境を変えて新たな人生を迎えたい、新たな挑戦をしたい、と考えることは悪いことではありません。しかし安易な方向転換では根本的な解決とはならず次の仕事でも同じ気持ちを抱くことになるでしょう。

仕事上の人間関係であれ、収入といった経済的要因であれ、自分が会社組織から与えられた役割分担を継続してゆく理由を見失い、そのストレスの対価に納得がいなくなることは誰もが一度は経験する試練ではないでしょうか。



今回、当社と縁を持ってくれた若者たちには、そうした人生の荒波をしなやかに乗り越える力を身につけて欲しい。仕事で壁に突き当たった時に、歯を食いしばってその困難と立ち向かう人間になって欲しいのです。当紙の題目であり、私の経営者としてのモットーでもある「マケテタマルカ」が示すように当社全社員の奮闘は日々続きます。その新しい仲間として新入社員22名を迎え入れることができたことは私にとってこの上ない喜びであります。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



## 若者に覆された昭和の精神論



プロ・アマを問わず、スポーツの世界では海外で活躍する日本人が増えています。野球、サッカー、ゴルフ、テニス、卓球、各種陸上競技等々、オリンピックメダリスト達を含めれば、その数たるや数え切れない人数になります。

私のような昭和生まれは、その少年時代に多くのスポーツで日本人選手と海外選手の埋めることのできない体格差やパワーの違いを目の当たりにし、まず互角の勝負は出来ないと信じきってきた世代です。

しかしボクシングはそんな身体的条件の有利・不利が少ないスポーツです。しっかり体重別でクラス管理されるので持って生まれた体格の大小が勝負に影響することは少ないといえるでしょう。その一方でボクシングは精神面の優劣をことさら強調されたスポーツでもありました。国内に世界チャンピオン不在の期間があったとき、「最近の日本の若者は贅沢になりすぎてハングリー精神が欠けていることが原因」との評論について批判する意見はありませんでした。

昭和の精神論の特長として「ハングリーであること」と「不幸せな境遇であること」が同義語化して、暮らし向きの良い普通の子供では世界チャンピオンになれない、といったおかしな風潮がまかり通ったのです。

時は平成となり、マー君、ダルビッシュ、イチロー、大谷。そしてボクシングミドル級の世界チャンピオンに君臨する村田諒太など世界から注目される若者の数は年々増えています。そんな彼らの口からはレツテル張りの精神論は微塵も聞こえてきません。スポーツ界に限らず私たちの企業社会の中にも根拠のない精神論を覆す、頼もしい若者であふれているはずだ、と思うのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



## キーワードは生産性向上



企業と労働者の関係が50:50(フィフティ・フィフティ)の関係から、ともすれば労働者優位の時代になってきたことを実感するニュースが増えています。給料・休日・労働時間・セクハラといった労務管理の問題は企業リスクのひとつとなりました。

その流れを加速させているのが、政府の進める働き方改革に後押しされた勤労者の権利意識の高まりでしょう。人手不足は賃金上昇を促し、より厳格な労働時間の管理を働き手が主張できる環境になりました。いわゆるサービス残業を「必要悪」とした社会的風潮が戦後70年を過ぎてようやく崩壊してきたのです。

日本の高度成長期を振り返ると、当時のサラリーマンは良く働いていました。外国労働者の雇用を奪ってまで利益を追い求め、「エコノミックアニマル」と批判されようが、「間違っているのは休んでばかりの怠惰な外国人の方」という認識が当たり前でした。

それは決して海外企業よりも生産性が高かったわけではなく、通貨安、低賃金、少ない休日と長時間労働をいとわない労働力によって支えられてきた成果でもあったのです。週休2日が定着し、祝祭日が年間10日以上も設定され外国並みに休暇が取れる労働環境となり、今度は日本人の生産性・競争力低下が心配される逆転現象さえ聞こえてきます。

当社でも従業員一人ひとりに「生産性の向上」にどれだけ関与できるかを問うています。会社への貢献度は、より効率的に最短時間で成果を出す社員に高評価がつくのです。「他人より頑張ったから」「休日返上で残業もいとわない仕事ぶり」だけでは高評価は望めません。そうした変化を受け入れる覚悟が働き方改革の一方で求められていると思うのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 当社の高校生採用活動が本格化します

毎年7月に入ると当社の採用担当者は「真夏の仕事始め」にふさわしく、高校生対象の求人採用活動のスタートダッシュさながらに忙しく飛び回るようになります。求人票の各種手続きから、先生を通じた企業への職場見学の問い合わせ対応、採用試験の段取りや長丁場の学校訪問と会社説明会の準備に心血を注ぐ日々がはじまるのです。

高卒採用を取り巻く環境は、ここ4・5年で「就職氷河期」から企業による「新卒生争奪戦」のような状況に一変しました。私は、この「超売り手市場」にどのように対応できるかが、数年後の業績を大きく左右する喫緊の経営課題であると認識しております。

当社の主力事業である警備業は、慢性的な人手不足と高齢化が進む業界です。当社では、こうした現状をいち早く打破するため、他社に先駆けて若い力(高卒生採用)を受け入れて参りました。今春、当社に入社した高卒新入社員は22名を数え、今日もお客様と直接向き合う最前線で活躍しております。本年度は30名の採用を目標にしております。



当社では若く頼もしい戦力を会社の発展、やがては社会の発展に役立てるため、立派な人材に育て上げることも企業の責任であると考えます。新入社員とは、お客様から感謝される仕事を一緒に作り上げていきたいのです。警備業界は年々「安心・安全に暮らしたい」とする社会的ニーズの高まりをうけ、仕事量が増え続けている成長産業です。ぜひ大切な生徒様に会社見学候補の1社として当社をご紹介いただければ幸いです。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。  
本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 当社はいつでも職場見学を受け入れております

学校が夏休みに入り、来春卒業予定者が就職を希望する会社研究のため、職場を訪れる季節となりました。当社でも、今月に入りすでに全拠点で10数名の生徒さんが当社の雰囲気に触れ、興味を抱いた警備業という仕事を少しでも理解しようと真剣な表情で採用担当の説明に耳を傾けてくれました。

先生、生徒の皆さんは「警備会社の社員」と聞いてどのようなイメージを持たれるのでしょうか。多くの生徒さんは「警察官のような真面目な人」と口を揃えます。

確かにそれは正しいのですが、そうした良いイメージを裏切らない責任ある仕事を社員一人ひとりが継続して実践するには、企業が人材教育のための投資を惜しまないこと、会社の成長と社員の幸福が同じスピードで達成される好循環を作り上げることが必要不可欠だと考えます。

先行きの見通せない経済環境の中にあって、最近の私は経営の醍醐味を「人材育成」に感じるようになりました。まだ18歳の若者が、当社に縁を得て仕事を通して経済的に自立し、厳しい人間関係の中で精神的にも大人として逞くなってゆく姿は真に尊いものです。企業が「若い力を社会に取り込む仕組みになる」ことは経営者の責任のひとつだと思うのです。私は企業の社会貢献とは、地域の新卒生や若者を雇用して、働きがいを感じるお客様の役に立つ仕事で地域貢献することだと強く思う今日この頃です。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 当社は新卒(高卒)採用9年目を迎えます

規模の大小を問わず、人事異動の無い組織では社員間のセクショナリズムが横行し、仕事の占有化が進むことで組織は硬直化してしまいます。世の中の動きに対応するうえで必須となる変革を嫌う社員ばかりになっては取り返しのつかない事態です。

支店間や社員間で競争原理が働かないとなると、会社が掲げる経営目標に社員が一丸となってチャレンジする風土が定着しません。現状維持に甘んじる気持ちは、同業他社との競争に背を向ける衰退のはじまりなのです。

当社の社員には現状維持ではなく、常にチャレンジする方を選択してほしいのです。そうした社風を醸成する人事施策が、担当部署を固定化せず異動させるジョブローテーションです。当社ではこの8月に十数名の社員を新たな部署・担当に就かせました。

複数の職種・部署を経験することで社員間の人間関係を固定化させず、さまざまなタイプの上司・部下と新たな関係を構築するスキルを自然に身につけることが出来ます。当社では、新卒採用(高卒社員)はまず交通誘導の現場を経験してもらいます。勤務評価に応じ、警備員から営業職・事務職・指導教育職として活躍できる多種多様なフィールドを用意しております。

1年前には学生服を着ていた生徒さんが、警備制服を身につけて現場で直接お客様と向き合いながら逞しく成長し、やがてスーツにネクタイ姿で後輩の指導や各種管理業務に欠くことの出来ない戦力として活躍する姿は当社では当たり前前の光景です。本年の採用活動でも当社の適材適所の「適所」を任せられる人材を一人でも多く採用したいのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「救急車の通行を確保する」

日常生活の中で街中を走る救急車を見ない日は無いほどです。そのたびに毎回、毎回、きちんと道を譲ろうとする日本のドライバーのモラルは私が幼少の頃から維持されていると気づきます。

私も運転しているときに遠くからサイレンが聞こえてくると、車列のながれに気を配りはじめて、後方車の減速加減に注意しながら路肩に寄せて停車することが当然と思ってきました。しかし昨今の交通事情がその妨げになる機会に出くわすことが増えてきました。

やっかいなのは大きな交差点より直線道路の混雑です。通行車両が上り下りともびっちり道脇に寄せたくても逃げ場の無い道路のときは心の中で「すみません。」と叫びたくなります。

燃費の良い軽自動車やコンパクトカーが人気とは言え、昔より大型のワンボックス車が圧倒的に増えたことも道路事情を悪化させていると思います。車は大きく出来ても、道幅は広げられないのです。当社の仕事のひとつである交通誘導業務も以前より高度な誘導技量が求められるようになりました。

私自身が、ガードレールのない道脇を歩くときは何ともいえない怖さを感じるので、登下校する小学生1.2年生に後ろから「もっとスミを歩きなさい!!!」と声かけすることがあります。顔を知らない大人から声をかけられると一瞬びっくりする子供たちですが、「車に驚くときは遅いから勘弁ね。」と心の中ではもう一言添えています。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「乱取りの相手」

このところ日ロ関係が急展開しはじめたようなニュースで大騒ぎになっています。北方領土問題が動き出すかのような記事は誰もが歴史が変わる一大事扱いで食いつくのでしょう。東西冷戦時代は互いに相手のことを必要としないプレーヤーだったこともあり、挨拶以上の関係にはなかったのです。

私の高校時代の好きな授業に体育の必修科目「柔道」がありました。柔道部出身の先生は体の大きい生徒を見つけては自分の乱取りの相手に指名して「巴投げ」をかけるのです。体格の良かった私がその役目を果たすのですが、他クラスの生徒は皆、巴投げを恐れて腰を引いて逃げまぐるので手ごたえに欠いていたのでしょう。

しかし生意気な私はいつも大技で応戦してやろうと先生の首の後ろの柔道着を掴み、手首のスナップを利かして襟を擦り上げます。私の左足裏が先生の右足半月板にピタリと着いたとき、襟を絞りに上げた右手に体重を乗せた瞬間、先生はフワッとよろけたのです。「先生に尻もちをつかせることが出来る!!!」と思えたのはほんの一瞬でした。

生徒に体勢を崩され、よほど悔しかったのでしょう。そこから私の体は木の葉のごとく宙を舞いました。受け身がこれほど痛くなく、畳に体がピシャリ、ピシャリと吸いつくように投げられたのははじめてでした。

ロシアのプーチン大統領は柔道の心得があることで有名です。それだけで親日的なはずもなく、73年間動かない領土問題解決に甘い期待を抱くのは幻想と知りつつも「乱取り相手はパートナーと認め合うもの同士が組み合うものです。」とこの国のトップに囁いて欲しいと思うのです。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎